

# 美術科授業案

教科で育みたい人間像 「自分の思いをもち、豊かな感性を働かせながら自分らしく創造していく人」

授業者 望月 理恵

- 1 日時 令和6年11月1日(金) 第1時 10:20~11:10  
 2 学級 1年A組 (美術室)  
 3 題材名 「ひみつの友だち」をアートでプロデュース—相手のことを考える造形実験—  
 4 本題材で願う学び

自分が考えたその人らしさをもとに、どのように表現すればよいのか試行錯誤することを通して、形や色彩、材料、光などの性質や、それらがもたらす効果などを実感することができる。また、思いをもって自分なりの表現方法を見つけていく、美術ならではのおもしろさを感じることができる。

(学習指導要領との関連：共通事項(1)ア)

## 5 これまでの学び

### (1) 図画工作とのつながり

小学校の図画工作科学習指導要領では、身近にある自然物や人工の材料、その形や色などから思いついた造形活動を行う「造形遊び」を各学年で行うように位置づけられている。「造形遊び」では、作品を完成させることではなく、そのプロセスが大切にされている。子どもたちは材料に働きかけ、自分の感覚や行為などを通して形や色などをとらえ、そこから生まれる自分なりのイメージをもとに、発想や構想を繰り返していく造形活動に取り組み、中学校に入学してきている。この授業で行う造形実験は、小学校で思いのままに発想や構想をくり返してきた「造形遊び」の経験を中学校の学習へとつなげることができる題材である。

中学校に入学した子どもたちは、幼稚園や小学校ですでに経験をしている鉛筆、クレヨン、パステル、色鉛筆の画材の性質や表現の特徴について考えてきた。また、新たに中学校に入学して購入したアクリル絵の具と小学校で使用してきた水彩絵の具の違いについても考えてきた。子どもたちにとってなじみのある画材でもじっくりその画材の性質や特徴を考えることによって、画材のよさや魅力だけでなく短所や相性のよい画材の組み合わせについても考え、「描きたいものによって画材は変えた方がよい」という感想をもつことができた子どももいた。今まで何となく「きれい」「おもしろい」「いいな」と使ってきた画材や材料の魅力やよさを考えながら、自分の表現意図に応じて、どんな画材、材料を使えばよいか試行錯誤しながら、よりよい表現を求める子どもたちの姿をめざして授業を行ってきた。

また、美術の授業を通して造形的な学びがあるだけでなく、表現や鑑賞の活動を通して自分と向き合ったり、自分と相手や社会との関係について考えたり、子どもにとって考える価値のある題材設定にしていきたいと思いながら日々の授業づくりをしている。

## 6 題材観

### (1) 本題材の価値

#### ①造形実験で授業を行うことの価値

造形実験は、子どもたちが実感を伴いながら表現や鑑賞の基礎となる知識を自然に学ぶことができ、多様な材料やあらわし方を試しながら自分なりの表現を見つけていく造形活動で、武蔵野美術大学の三澤一実氏によって提案された授業の手法である。みんなで共有する主題「研究テーマ」をもとに、実験をくり返しながら自分のイメージに合ったよりよい表現を追求し、その過程を研究発表会で他者と共有していく造形活動である。結果ではなく、過程が重視されており、「緊張感を考える」などの研究テーマをもとに、画材や材料や素材をどのように使用することで自分のイメージに近づくことができるのか、試行錯誤しながら、よりよい表現を求めていく子どもたちの姿(図1)が期待される。



図1 造形実験を通して試行錯誤するようす

中学校の表現活動は、主題をもとに、事前に構想を練って作品に表す活動がほとんどである。そのため、「作品を完成させること」が目的になってしまいう子どもも多い。子どもによっては、思い通りにいかないと「これでいいや」と、無理矢理に作品を完成させてしまうこともある。しかし、美術の授業の魅力は自分の想いを試行錯誤しながら表現していくことであり、作品を完成させることではない。

造形実験では、研究テーマをもとに試行錯誤していく過程に意味があり、今までの授業では感じる事が難しかった自分の想いをもとに試行錯誤していく価値を子どもが実感することができる。

また、様々な表現技法や画材の使い方を自分自身で獲得することも造形実験の魅力である。研究テーマをもとに、どの画材や材料を使うのがテーマに合っているのかを実験しながら試行錯誤することによって、自分なりの表現を追求していく。その過程で、形や色彩、材料や光などがもたらす効果について実感し、知識として自然に身につけていくことのできる題材である。「○○を表現したいからこの技法を使ってみよう」という姿を見ることができよう。

## ②相手のことをアートで表す価値

美術のよさは、造形的な学びがあるだけでなく、造形活動を通して、自分と向き合ったり、自分と他者、社会との関係について考えたりすることができることだと授業者は考えている。そのため、子どもの実態をとらえた題材を設定することで、子どもにとってより価値のある学びが繰り返されるはずだ。造形実験も形や色彩、材料や光がもたらす効果など、造形的な学びがあるだけでなく、心の成長があるものにしていきたいと考え、自分と相手との関係に目を向けていくことにした。造形実験を通して、相手を見つめていくことで、互いのよさや「らしさ」を認め合うことができる関係づくりのきっかけにしていきたい。

### (2) 本題材で願う子どもの姿

本題材では、自分の想いを自由に表現する美術の楽しさを子どもたちに感じてほしいと願っている。また、今まで「これでいいや」と作品を完成させていた子どもや、思った通りにできなくて途中でなげ出してしまっていた子どもが、粘り強く制作に取り組み、試行錯誤の先に生まれる自分の表現ができた喜びや達成感を感じてほしいと願っている。実際に行ってみてイメージと違ったり、思った通りにいかなかったりしたときに、「どうすればイメージ通りにできよう」と試行錯誤し、「他の表現に挑戦

してみよう」と新たなものを生み出そうとする前向きな姿があることを願っている。それとともに、今まで「上手」「下手」などの技能にこだわっていた子どもに、自分の想いを表現するために試行錯誤することのおもしろさや価値を感じてほしい。

また、造形実験という活動を通して、今まで知らなかった、知ろうとしなかった友だちのよさに気づき、互いのことを知るきっかけになることを願っている。

例えば、Aさんのイメージは「思いやりがあるところ」と気づいた時に、「思いやり」にも色々な「思いやり」があることに目を向けてほしい。「リーダーが厳しく注意するのは思いやりではないの?」「係活動に一生懸命取り組むことも思いやりだね」など、さまざまな思いやりに目を向けることによって、「Aさんがもっている思いやりは、どんな思いやりだろう」と考えていこう。そこからAさんの思いやりのイメージに合った色、形、素材等を考え、試行錯誤しながら実験していく姿を願っている。パステル等の柔らかい画材を使って表現することがよいのか、それともふわふわした綿のような素材を使って表現することがよいのか、さまざまな画材や材料、素材の中から実験を繰り返す中でよりよい表現を追求する子どもの姿を願う。また、相手のイメージに合ったよりよい表現を追求する中でより相手について考え、相手を理解することにつなげていきたい。相手らしさについて考えることで、子どもたちには、自分のことばかりを主張するのではなく、相手の想いにも耳を傾け、そのよさも受けとることができる他者意識も身につけてほしい。自分が苦手とする相手も全部を否定するのではなく、「こんないいところもあるのだな」と受け入れられる心の広さも身につけてほしい。

さらに、造形実験は、今後の授業に取り組む子どもたちのあらわれにも期待できる授業である。自分の想いをもち、その想いに向かって試行錯誤しながら自分なりの表現を追求していく美術のよさやおもしろさを感じられた子どもたちは、今後の授業でも失敗することを恐れずに、思い切りさまざまな表現に挑戦する姿勢がみられるようになるだろう。表現活動だけではなく互いの作品や芸術家の作品を鑑賞する活動の中でも、見た目の美しさだけではなく相手が何を表現したのか、その想いに寄り添いながら鑑賞を行うことができるようになっていくことを願っている。

## 7 題材構想 (全 10 時間)

- (1) 1年A組を表現する「1年A組をアートでプロデュースしよう」(2時間)
- (2) 前時の作品を鑑賞しながら、今後の活動について語り合う&「ひみつの友だち」の決定(1時間)
- (3) 研究テーマを決定&自分なりに表現する—「ひみつの友だちをアートでプロデュースしよう」造形実験①—(1時間)
- (4) 自分なりに表現する—造形実験②—(1時間)
- (5) 秘密の共有&自分なりに表現する—造形実験③—(1時間:本時)
- (6) 自分なりに表現する—造形実験④—(1時間)
- (7) 自分なりに表現する&発表準備—造形実験⑤—(1時間)
- (8) 研究発表会&語り合い(2時間)

本題材を構想するにあたって、1年生の実態を考え、心の成長につながる題材設定にしたいと考えた。1年生は自分の考えを主張することが得意な子どもが多い。その一方で互いが自分の意見ばかりを主張しすぎてけんかになってしまうこともある。また、相手の一部分だけをみてこういう人だと思いきんでしまい、一度苦手だと思った相手をなかなか受け入れることができずにいる子どももいる。そこで、造形実験という活動を行うことで、相手のことを考えるようになってほしいと考え「ひみつの友だちをアートでプロデュースする」という題材を設定した。

授業は、くじでランダムに選んだ友だちのイメージについて、表現を通してプロデュースしていく形ではじめていく。子どもたちは、誰が自分のことを制作しているのかを知らない。あえて互いに秘密という形をとることで、日常生活の中でも相手の行動に目を向けていきながら、「その子のイメージって何だろう」と考えていきたい。くじで造形実験の対象となる相手を決めるため、自分が苦手とする相手のことを考える子どももいることが予想される。その場合もプロデューサーとしてプロデュースする設定をとることで、子どもの意欲が下がらないように声かけをしていきたい。また、苦手な相手やあまり知らなかった相手も造形実験のもとに、相手を見つめていくことで普段は気づくことができなかつた、あるいは知ろうとしなかつた相手のよさにも気づけるようにしていきたい。

授業の最後には、自分の研究結果を発表し合う活動を行う。活動を通して互いのよさにも気づけるような雰囲気をつくっていききたい。「だれのことを表現したのだろう」とイメージを広げながら、発表者も鑑賞者も興味をもって参加できるような発表会を行いたい。

### (1) 1年A組を表現する「1年A組をアートでプロデュースしよう」(2時間)

まず、導入として、「1年A組のイメージって何

かな」となげかける。子どもたちは、「明るい」「元気」「騒がしい」「前向き」などのキーワードを口にするだろう。また、「騒がしい」を音にするとどんなイメージかな→ガチャガチャ、ワーワー、と音に変換しながら造形実験を行うにあたって、発想や試行錯誤が生まれやすいキーワードを共有していきたい。

第1時では、まず、子どもたちの「楽しい」を引きだしていくことが大切だと考えている。今まで限られた画材や材料の中で表現に取り組んできた子どもたちが自由に表現する楽しさを味わうと同時に、「もっとやりたい」という気持ちを引きだせるとよい。授業者は使用する画材や材料を提示したり、渡したりすることをせず、子どもから要望があつたら渡していく形をとっていききたい。「色鉛筆を使ってもいい?」「水彩絵の具を使っている?」から少しずつ「クレヨンを使いたい」「粘土を使いたい」と子どもの意欲が引きだされていく授業の雰囲気をつくっていききたい。2時間たっぷり時間をとることで、2時間目には教室に子どもたちの「やりたい」があふれる空間をつくることのできるだろう。また、1時間ごとに自分の取組を記録していきたい。活動のふり返りをその後の造形実験のイメージを子どもたちとつくることに生かしていきたい。

### (2) 前時の作品を鑑賞しながら、今後の活動について語り合う&「ひみつの友だち」の決定(1時間)

ここでは、2時間の造形実験をふり返る。子どもたちは、楽しかったことや難しかったことを語り合っていくだろう。造形実験について、自分の想いを表現するために試行錯誤する楽しさや色々な表現を試しながら自分なりの表現方法を探していく過程のおもしろさや大変さなどについて以下のように語っていくだろう。

・最初は、何をしたらよいかわからなかつたけれど、友だちがいろいろな表現をしている姿をみ

て、とりあえずやってみたら、イメージがどんどん広がって、色々な表現にチャレンジしていきたくなった。

- ・まだ、何をしたらよいか、よくわからない。でも、それを自分で探していかななくてはいけない授業なのだと感じた。

子どもたちのふり返りをもとに、造形実験の価値を見いだしながら、研究テーマ「ひみつの友だちをプロデュースしよう」を共有する。子どもたちは、研究テーマを追求する時に、気をつけることを以下のように語るだろう。

- ・1年A組を表現したときは、「騒がしい」でもよかったけれど、友だちを表現する時は、相手が傷つく表現はさけないね。
- ・マイナスなイメージも見方を変えるとプラスになるから、そういう目で相手を見ていくとよいのではないかな。

授業の最後に、くじを引き、「ひみつの友だち」を決定する。「絶対秘密」という合い言葉のもと、互いに聞かない、言わないと強く約束する。そして、次の時間まで「ひみつの友だち」を観察し、相手のイメージをふくらめていくように声かけをしたい。

### (3) 研究テーマを決定&自分なりに表現する—実験①—(1時間)

今回の題材は、表現を追求していくことに意味があるため、研究テーマをどのようにもつかが大切になってくる。1年A組を表現したときのことをふり返りながら、相手のイメージに合った研究テーマを考えていきたい。具体的な行動から抽象的なイメージに入る子もいれば、抽象的なイメージから、なぜそんな印象を受けるのか、具体的に考えていく子もいるだろう。造形実験に入った時に、単に具体的なものを表現することを避けるために、導入で行ったように、言葉を音に変換しながら研究テーマを考えていきたい。言葉のイメージがわからずに困っている子どもには、性格を表す言葉が一覧になっているワークシートを配付する。子どもたち一人一人の思考に寄り添いながら研究テーマを考えられるようにしていきたい。

研究テーマが決まった子どもから造形実験に入っていく。

### (4) 自分なりに表現する—造形実験②—(1時間)

この時間から本格的に造形実験に入っていく。教室にさまざまな材料や素材を置き、子どもたちが自由に材料を選んで使用することができるよ

うにする。授業の最後に、今日の取組や次回挑戦したいことを記録するようにうながし、次の時間以降の造形実験や発表会へとつなげていきたい。

- ・テーマをふわふわにしたから、柔らかい印象の画材や素材を探してみよう。
- ・ひみつの友だち〇〇さんは、はっきりしたイメージだから濃い色を使ってみよう。
- ・テーマをシャキーンにしたけど、何をすればよいか。

### (5) 秘密を共有しよう&自分なりに表現する—造形実験③—(1時間)

同じような研究テーマをもっている子ども同士で、意図的なグループをつくり、前時のそれぞれの活動のようすを共有していきたい。「Aさんの優しさとBさんの優しさは違うよね」「Aさんのイメージにぴったりの優しさを表現するには、どんな表現がふさわしいのだろう」と、今後の試行錯誤のきっかけとなる共有がされるだろう。また、友だちの表現をヒントに、表現方法が豊かになることをめざしていきたい。

- ・似ているテーマだけど、表現が全然違う。同じテーマだけど、何をを使うかで印象が変わってくるね。ひみつの友だち〇〇さんらしさを考えていくことが大切だね。
- ・秘密の共有をして、相手に合った表現をもっと探していきたいと思った。

### (6) 自分なりに表現する—造形実験④—(1時間)

この時間には、さまざまな表現をしている子どもたちがあふれているだろう。授業者は、「こうしたい」という想いをもって制作している子どもに寄り添いながら、子どもたちが取り組みたい表現に挑戦していけるように、その子に応じたアドバイスをしていきたい。

- ・色々な表現を取り組んでみて、やっぱり〇〇さんの優しさはパステルを使って表現するのが一番よいと思ったから、パステルを使って描こう。丸をたくさん描くことで、誰にでも優しいイメージにしていこう。パステルはこすると柔らかい表現ができるけど、何度もこすった表現を重ねていくことで深みのある表現ができる。
- ・真ん中に濃い赤を強調して表現することで、〇〇さんの「周りに流されない芯の強さ」を表現してみよう。周りに明るい色を置くことで、真ん中の赤がより強調される。
- ・〇〇さんは、いつもクラスのみんを笑わせて

くれるイメージがあるから、円を重ねて笑いが広がるイメージにしてみよう。グラデーションで表現することで、広がりや表現できるだろうか。

- ・〇〇さんは色々なことにチャレンジしていて、輝いているから、色々な光を集めて〇〇さんを表現していこう。懐中電灯にカラフルなセロファンをあてることで、カラフルな光を表現できるだろうか。
- ・〇〇さんはとにかく元気だから、晴れのイメージがぴったりだ。外が一番日が当たっているところにビー玉をおいて、〇〇さんのイメージを撮影していきたい。
- ・〇〇さんは、風のようにいつもさわやかだから、ビニールテープを風になびかせてそのようすを動画で撮ってみよう。

したいことも語り合いながら、造形実験で学んだ自分が表したい想いに向かって試行錯誤しながら表現を追求していく姿勢をこれからの授業につなげていきたい。

- ・美術が苦手な私も楽しく取り組むことができた。いろいろな表現に挑戦することができたからだと思う。
- ・美術は、「上手い」「下手」でなく自分の想いを表現するためにどうすればよいか、考えていくことが大切な教科であることがわかった。
- ・みんなが自由に色々な表現に挑戦している姿を見て、美術は自由でよいのだと感じた。これからは自由に表現を楽しんでいきたい。
- ・相手にふさわしい表現を探すことが難しかった。でも、そうやって考えることが大切なのだと感じた。
- ・相手のことを考えながら制作していたら、今まで気づかなかった相手のよさに気づくことができた。
- ・友だちの表現を見て、新たな自分の一面に気がつくことができて、うれしかった。

### (7) 自分なりに表現する—造形実験⑤—&発表準備（1時間）

造形実験の記録をもとに、1人1分程度の発表を考える。造形実験を通して考えたことや自分の表現の変化、自分なりの表現方法にたどりつけた子どもは実験を経て、たどりついた表現を発表する準備をしていこう。

### (8) 研究発表会&語り合い（2時間）

一人一人が実験結果の発表をする。誰をテーマにしたのか、想像しながら発表を聞くことで、興味をもって互いの発表を聞くことができるだろう。また、発表の最後に、表現した相手ができることで、新たなその人のよさを感じることができるだろう。全員の発表が終わったところで、今回の授業で得た学びを語り合いたい。ただ「楽しかった」「難しかった」で終わるのではなく、なぜそう感じたのかにも注目しながら、子どもの言葉を引きだしていきたい。また、今後の美術の授業で生か

今後も造形実験の経験を生かした題材を設定していくことで、子どもたちが自分の想いをもってより深いところで試行錯誤する姿を見ることができるようになるだろう。3年間の美術を通して、子どもたちには、「こうしたい」という自分の想いをもち、想いを表現するために豊かな感性を働かせながら試行錯誤し、自分らしく創造できる人になってほしいと願っている。

参考文献：三澤一実（2024）『造形実験 新しい美術の授業を始めよう』武蔵野美術大学出版局  
『学習指導要領解説 図画工作編』文部科学省  
『学習指導要領解説 美術編』文部科学省  
全国大学造形美術教育教員養成協議会メールマガジン 2022.9.1 第 60 号